

こんにちは

日本共産党

横浜市議団です

日本共産党
 横浜市議員団
 2007. 11. 14号
 横浜市中区港町1-1(市庁舎内)
 電話 671-3032 FAX 641-7100
 E-mail: info@jcp-yokohama.com
 http://www.jcp-yokohama.com/

みなと
横浜

大赤字の大さん橋の責任は

横浜港大さん橋は、横浜港開港後、本格的な港湾施設として1889年から4年かけて作られ、「メリケン波止場」とも呼ばれて長い間横浜港の中心的な設備として活躍してきました。建設後100年が過ぎ、老朽化が進んだことなどから、2002年に2002FIFAワールドカップサッカー大会に合わせ、総事業費251億円をかけて現在の新しい「横浜港大さん橋国際客船ターミナル」がオープンしました。

個性的なデザインのしゃれた客船ターミナルですが、大赤字の経営状態です。

平成18年度包括外部監査報告によれば、「使用料収入が当初予算を大きく下回った状態が続いており、建設のために発行した機能債138億円の返済のめどが立たない状況に陥っているため、事業収支計画の見直しが求められている」と評価しています。

客船ターミナルの収入を、駐車場、CIQ出入国プラザ、店舗合わせて年間5億円見込んでいましたが、実際の収入は1億円前後にとどまり(下表)、単純収支差額はマイナス2100万円～プラス1400万円で、使用料収入からは利息の支払いがほとんどできず、税金が繰り入れられています。さらに機能債(注*)の利息の支払い額も含めると、2006年度までの4年間だけで累積6億円の収支不足となっています。

外部監査では、「機能債を償還期限の30年で

4年連続して客船寄港実績日本1の大さん橋ですが、4年間で6億円もの累計赤字です。手前はレンガ倉庫、奥は山下ふ頭。



完済する計画の達成は著しく困難」であり、「当初の収入見込に甘さがあった」とし、「早急に新ターミナルの厳しい収支状況を市民に開示した上で、事業収支計画を見直し、適切な予算措置を講ずる必要がある」と指摘しています。

日本共産党横浜市議団は、リニューアル計画時から予算をかけすぎると指摘。10月の決算特別委員会でも白井正子議員(港北区)は、過大見積りによる過大投資のこの事業を強行した市当局と容認した議会の責任は大きいと指摘し、甘い認識を改め、現実を直視するよう求めました。それに対して中根港湾局長は、様々な視点から改善策を検討して取り組むとしたものの、「オープンからまだ5年。あと25年返すまでである」と無責任な答弁でした。

収入見込実績対比表(機能債対応部分)

(単位:百万円)

<収入>	<当初見込>	<決算実績>			
	(注1)	2002年	2003年	2004年	2005年
客船ターミナル	505	86	103	116	121
駐車場	263	67	82	88	97
CIQ 出入国プラザ等	216	5	4	9	4
店舗	26	14	17	19	20

(注) 2003、2004年度の収支見込額によっている。

(平成18年度包括外部監査報告書より)

注*: 機能債とは、一般の市債のように税金等を財源として返済するものではなく、特定の収入を財源として返済する市債。今回の場合は、市債176億円のうち138億円(元利を含めると179億円)を客船ターミナル事業の使用料収入によって返済しなければなりません。